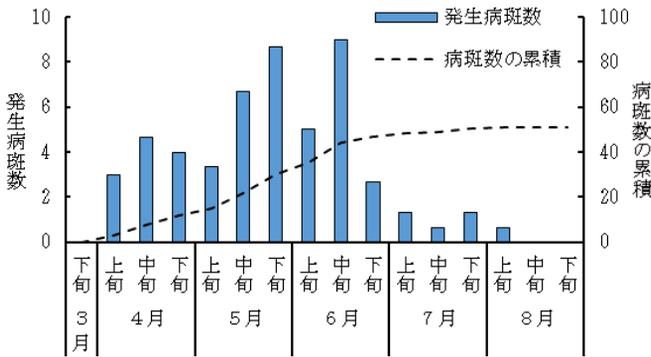


モモせん孔細菌病の春型枝病斑の発生時期と 切除する枝の特徴

モモせん孔細菌病の防除のためには、一次伝染源である春型枝病斑の早期切除が重要です。本県における春型枝病斑の発生時期は4～5月とされてきましたが、その後も発生が続くことを確認し、さらに、春型枝病斑として切除する枝の特徴を明らかにしたので紹介します。

春型枝病斑の発生時期



春型枝病斑（紫褐色の病斑）

春型枝病斑の時期別発生病斑数（令和3年）
（注）「あかつき」「川中島白桃」「大久保」各1樹平均値

- ◆ 春型枝病斑の主な発生時期は4～6月であり、7月以降も発生がみられます。
- ◆ 定期的に園地を見回り、発生を見つけ次第、枝ごと切り取って処分しましょう。

切除する枝の特徴



開花や展葉の遅れがみられる枝



芽や幼果、枝先が枯死している枝



亀裂のある枝

- ◆ 結果枝（1年枝）にできる紫褐色の病斑のほかに、写真のような特徴がみられる枝も病斑が発生する、又は発生しているので、切除しましょう。
- ◆ 春型枝病斑が発生した枝は、枯れ込むこともあり、結果枝としては不適當であることから、必ず切除しましょう。

詳細は令和4年度指導参考資料「モモせん孔細菌病の春型枝病斑の発生時期と切除する枝の特徴」
<https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2019050800018/files/R4-7.pdf>をご参照ください

- ◆ モモせん孔細菌病の防除のためには、薬剤散布と耕種的防除を組み合わせた総合的防除の徹底が基本です。